

名作文庫通信

2021年 秋号



秋季特集

人生とはなにか？

人生について深く考える本。人生哲学の一冊



【ツアラトウストラ 上・下】

ニーチェ/著 丘沢静也/訳 光文社古典新訳文庫/刊

哲学者であり、詩人でもあったニーチェの主著。ツアラトウストラは、古代ペルシアの予言者、ゾロアスターの名からとられた。十年間、山に籠もった後、ツアラトウストラは知恵を伝えるため「人間の海」へ下り、「神は死んだ」と説教する。比喩的な逸話によって、ニーチェの根本思想が格調高く、箴言的に語られる。



【人生論ノート】

三木清/著 新潮文庫/刊

三木清は、京都大学で西田幾多郎に学び、ヨーロッパ留学でハイデッガーに師事。『パスカルに於ける人間の研究』で哲学者として注目される。マルクス主義の研究で革命運動に影響を与えながら、昭和初期のジャーナリズムの場で華々しく活躍。ファシズム、軍国主義を批判し、新しいヒューマニズムを主張するも、1945年に獄死する。死について、懐疑について、偽善についてなど、23題からなる珠玉の論文集。

「名作文庫」とは？

下井草図書館では文学、哲学、思想、歴史などの名著名作を文庫版・新書版で集め、「名作文庫」としてご紹介しています。



今月の1冊 心の旅を描く物語

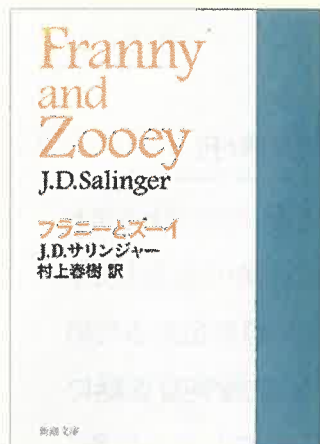


【歎異抄】

唯円/著 親鸞/述 川村湊/訳 光文社古典新訳文庫/刊

親鸞の弟子、唯円による親鸞語録。親鸞没後、真宗教団において、師説に背く異端の発生を嘆き、誤りを正し、念仏者の不審を明らかにするため本書を著した。親鸞には『教行信証』をはじめ、書簡集などもあるが、親鸞の思想を端的に示すものとして、この書に及ぶものはないといわれている。悪人正機説など、親鸞の思想を的確に把握できる。

新着本 新しく入った本のご紹介



【フラニーとズーイ】

J.D.サリンジャー/著 村上春樹/訳 新潮文庫/刊

エゴだらけの世界に欺瞞を覚え、宗教書に魂の救済を求めるフラニー。兄ズーイは才気とユーモアに富む渾身の言葉で、自分の殻に閉じこもる妹を救い出す。新訳。訳者・村上春樹の特別エッセイを掲載した別紙挟み込み付き。(TRC MARKより)



【フロイト、夢について語る】

フロイト/著 中山元/訳 光文社古典新訳文庫/刊

夢とは何か。人はなぜ夢を見るのか。夢のメカニズムとそのはたらきは-。無意識を発見したフロイトの原点ともいべき「夢解釈」の理論の誕生とその後の展開をたどる。「夢について」「証拠としての夢」など6つの論文を収録。(TRC MARKより)

編集後記

読書家の恩師の家を訪ねたとき、「これは一生のうちに読んでおくべきだ」と薦められた本を借りて、帰って読んだ。深い感動があった。本を返しにいき、お礼をいうと、酒が出た。その本について語りあったが、話があわない。恩師は別の本と勘違いしていたのだ。特集棚に並べる本を選んでいたら、そんなことを思い出した。

発行：杉並区立下井草図書館

杉並区下井草3-26-5

